

## 国土審議会 第7回北海道開発分科会 議事概要

1. 日 時：平成19年4月18日（月）12：15～13：45
2. 場 所：全国町村会館 2階 ホールB
3. 出席者：〔委員〕丹保分科会長、嵐田北海道副知事（高橋委員代理）、家田委員、石崎委員、井須委員、上田委員、見城委員、生源寺委員、中川委員、丸谷委員、南山委員、森地委員、吉川委員  
〔国土交通省〕冬柴大臣、品川北海道局長 他

### 4. 議事（概要）

- （1）開会
- （2）冬柴国土交通大臣挨拶
- （3）分科会長の互選について
- （4）新たな北海道総合開発計画の策定について（諮問）
- （5）今後の調査審議の進め方について
- （6）閉会

### 5. 議事及び主な発言内容

#### （1）分科会長の互選について

委員の互選により、丹保委員が分科会長に選出された。また、丹保分科会長から、分科会長代理として南山委員が指名された。

#### （2）新たな北海道総合開発計画の策定について（諮問）

冬柴大臣から、新たな計画についての諮問文が手交された。

#### （3）今後の調査審議の進め方について

資料4について事務局から説明の後、以下のとおり議論が行われた。その後、分科会として別紙1の要綱案どおり計画部会を設置すること、出された意見を踏まえつつ資料4に沿って今後の議論を深めていくことが了承された。計画部会委員の人選については、丹保分科会長に一任された。

### 【主な意見】

- ・ 新たな計画の策定に当たっては、道庁との連携が重要。省庁再編前の北海道開発法には、審議会委員として北海道知事が明記されており、道庁として意見を述べる機会が確保されていた。現行法の下にあっても、引き続き道庁の考え方と整合性が図られるよう審議を進めるべき。
- ・ 食料基地の実現、自然環境の保全など重要政策を進めていくとともに、遅れている社会資本の整備を進めていくため、国による北海道開発の枠組みは引き続き重要。新たな計画も閣議決定としていただきたい。道庁も6月議会で次期長期総合計画の原案の議論、3定で諮問案の議論、年明けの1定で決定を予定しており、地域の括りの議論も含めて国の計画とよく調整を図ってまいりたい。

- ・ 地域の発展を目指した国際化の取組は北海道が最初であり、従前から北方圏交流に取り組んできた。日本と東アジアとの交流の重要性は認識しているが、北海道としては、地理的条件などから東アジアとの結びつきはそれほど強くないのではないかと。
- ・ 札幌ではITを中心として文化やビジネスの交流・連携を図る e-silkroad 構想の推進や、音楽、ファッション分野の国際的イベントの開催などに取り組んでいる。札幌は菓子・スイーツの分野にも取り組んでおり、この分野でも第一次産業の価値を高めることができるのではないかと。
- ・ 産業誘致などは札幌市だけでなく周辺の地域とも協力することが必要、札幌と道との役割分担が必要だと思うので、これからつめていきたい。
- ・ 国産材を使った産業振興の観点から、道内の林業、森林の取組についても検討していただきたい。21世紀は水と土の時代であり、安全・安心な食を提供できる北海道農業の役割が重要。食料自給率200%というが、地産地消はきちんと行われているか、外国人観光客のニーズに合った食が提供できているか検証し、産業の厚みを増す施策を打ち出していくべき。東アジアとの連携については、地理的、歴史的に九州が先行する中、北海道はどのようなスタンスで望むのか検討が必要。
- ・ 検討の進め方において留意点として挙げられている3点に賛成だが、これを検討してどのように計画に盛り込んでいくかが課題。従来の計画ではおおよその方向性しか書かれていないが、例えば道路について、片側2車線、もう片側1車線を交互に整備することによりコスト減を図るとか、速度規制の緩和を図ることができないかなど、どのように整備しどのように使うのかといった具体的な例を示すことが必要ではないかと。
- ・ 夢のある計画が必要だが、現実を分析した上で、何をすべきかという視点が必要。例えば観光については、訪問者数の増加だけで満足するのではなく、北海道観光の良い点、悪い点といった本質的な部分の自己チェックを行い、改善につなげていくことが不可欠。農業なら、素材はよいので、加工も道内で行うようにシフトしていくことが必要。
- ・ 東アジア連携とは、東アジア地域の経済が大変な勢いで成長していることを踏まえ、これらの地域との連携が戦略的に重要であるということ。中国や韓国から日本海、津軽海峡を通して太平洋に抜ける航路が活発化しており、苫小牧港、新千歳空港とその周辺地域は極めて有利な立地条件にあるのではないかと。
- ・ 北海道の自立に向けて、一地域の開発を所掌する北海道局の存在は重要。道庁は北海道局と密接に連携していくべき。
- ・ 広大な北海道の全域をひとまとめに捉えるのは現実的でない。特色ある6つの圏域ごとに、地域の声をよく聴取し、計画に反映させるべき。道庁の長期総合計画策定作業でも同じように意見聴取し、国との整合性を図るべき。
- ・ 北海道の農業農村はムラ社会に埋没していないところが特色だが、コミュニティの活性化には住民の共同行動が大事。道東の農道で沿道一杯に花を植えている光景はすばらしいが、違う行動をとる者がひとりいるだけで台無しになる。経済原理に即して短期間のうちに成果を求めがちだが、次の世代につながる我慢強い投資が必要。ただし、長期

的な投資にあたっては、明確な説明をする必要がある。

- ・ 北海道の国際化については、経済的マーケットを考えると東アジアとの連携が重要。東アジア共同体構想の中で北海道の果たす役割は大きい。これまでの北海道開発においては、北海道の発展に重点が置かれ、他の地域の発展はあまり考慮されていなかったのではないかと。北海道もアジアも発展する win・win の観点が重要。
- ・ 高齢化の進む広域分散社会の北海道にとって、札幌圏への一極集中は極めて大きな課題。病院を含めた公的サービスが札幌に集中し、地方圏の高齢者は苦勞して遠くの病院に通う状態。国土の均衡ある発展の観点から対策が必要。
- ・ 稚内は北緯 45 度にあり、日本では最果ての地とされるが、ヨーロッパではヴェネチア、マルセイユと同じぐらいの位置にある。北の果てというステレオタイプを変えていくイメージ戦略も観光にとって必要ではないか。
- ・ 企画調査部会報告の冒頭で、誇り高い我が国のフロンティアとしての北海道はどこに行ったのか、という趣旨の文章を載せた。他の地域の先例になるという視点を持ってもらいたい。
- ・ 「東アジア」とは、北はロシア極東地域から南はオセアニアまでを含む幅広い地域を指した言葉だろう。国際化について議論する際には相手を明確にすることが重要だが、「世界」だとイメージが漠然とするのに対し、「アジア」だと地図が浮かぶので、相手をイメージしやすくなる。
- ・ 6つの圏域、都市の個性、地域の厚みといったことをどうやって打ち出すかが重要。次期計画は、国土形成計画と並列であると同時に、ブロックごとの広域地方計画との並びも考える必要がある。地域の特性に応じた発展のあり方、地域の厚みについて具体的に示していくことが必要。
- ・ 食料危機が叫ばれる一方で、トウモロコシやサトウキビがエタノールの生産に使われるなど、農業が工業原材料を生産しているかのような雰囲気になっていることを危惧。酪農の飼料となるトウモロコシの価格が暴騰し、北海道農業の特性である酪農業が危機に面している。
- ・ 北海道での具体的な農業施策について検討するためには、北海道の農業代表者も委員等として加えることが必要。
- ・ 北海道総合開発計画が国土形成計画と広域地方計画の双方の要素を持つという点は重要。
- ・ 食料は価格が上がっても買わなければいけない必需品であり、食料供給はきわめて重要。食料は国家の存在の基盤であり、その点で北海道の存在は重要。
- ・ それぞれの製造業における質、量、シェアも大事だが、同時に分野横断的な連携も図り、製造業全体として捉えることが必要。
- ・ 北海道は、今後の世界経済の原動力となるであろう米中両国と近い位置にあり、地の利をいかした取組を展開するべき。
- ・ 道内各地域の特性に応じた発展の道があるはずであり、地域ごとに意見を聞くことが必要。地方では人口減少・過疎化が進んでおり、地域社会の崩壊を防ぐ方策を検討する

必要がある。これは全国のモデルにもなる。

- ・ 国と地方が、お互いに自らの役割分担を意識して計画を策定することが必要。
- ・ 計画の実施に当たっては確実なチェック&レビューの仕組みを構築し、毎年修正することも厭わない心持ちで推進することが必要。

以 上

注：本議事概要は、北海道局参事官室担当者の責任において取りまとめたものであり、今後公表される議事録等と異なる場合があります。